

新春2回目となるオンリーワン

発行：新潟北高等学校

24020329

スクール推進事業は、節分当日に

県立幼稚園で行われる「豆まき集会」を中心とした

交流体験実習であった。「豆まき集会」は、県立幼稚園において、
大切な行事と位置づけられ、参加する高校生には次の2つの課題

が与えられた。1つ目は、一人一人が「鬼のお面」を作成すること、2つ目は、自分の心
の中にある「退治したい鬼」について全園児の前で発表することである。1学年に案内し
たところ、保育系、幼児教育系への進学を希望する有志10名が名乗りをあげた。

来たる交流体験実習「豆まき」を前に、1月27日（金）に事前指導を実施し、1年生
の有志10名には、実習の概要、注意事項、係分担と一連の説明の後、「豆まき集会」へ向
け一人一人に前述した2つの課題を指示した。

交流体験実習の前日に、生徒が作成した「鬼のお面」を確認し、明日を迎えるだけとな
ったが、ここ数日大雪による列車の遅れを目の当たりにして、生徒には、「普段より一列
車早い時刻の列車で登校する」ように指示したものの悪い予感。心配性の私は夜も眠れず
…というのは真っ赤な嘘(^_^)。案の定、当日2月3日は吹雪で大雪。列車、バスは遅
れ、朝の集合時間に間に合った生徒は2名のみ。急遽、年長さんとの交流会中止をお願い
し、豆まき集会とその後の企画に絞り交流体験実習を実施した。

交流体験実習「豆まき」～H24.2.3



「ドンドンドン…ガッシャーン……、太鼓とシンバルの音が響き、鬼の登場！！」

交流体験実習「豆まき」当日

当日朝、大雪による交通機関の混乱があり、生徒は3隊に分けて移動。最後の隊が県立幼稚園に到着したのは、豆まき集会開始約10分前。有志10名のうち、当日は9名が集合。準備を整え、いざ豆まき集会に出陣！！

<豆まき集会>

参加者全員が遊戯室に整列し、豆まき集会のはじまり。年少さんの担任による進行で、全員が「豆まきの歌」を歌う。その後、節分のいわれについて話を伺う。「節分には、季節の移り変わるときという意味があり、特に立春の前日を指す。悪いことが起こるのは鬼のしわざであるから、この鬼を退治せねばならない。柵の枝に鰯の頭を刺したものを戸口にはさんでおけば、鬼は嫌がって近寄ってこない。また鬼の嫌がる煎った大豆をまいて鬼を追い払うようになった」そうである。次はいよいよ本校生徒の出番である。



全園児の前に一列に並び、各自が作成した「鬼のお面」を披露。順番に「自分の退治したい鬼」について説明を行う。ある生徒は、「私はお寝坊で、遅刻しそうになることがあります。自分のなかにいる「お寝坊の鬼」を退治したいと思います」と淡々と説明していた。生徒には予め課題として指示していたが、自分の短所を、人前で説明するのは、恥ずかしさも加わり少々勇気が必要である。生徒たち全員から説明があった次は園児たちから、「食いしん坊鬼です」「恥ずかしがり屋の鬼です」など希望者による退治したい鬼の発表があり、その後全員で「赤鬼と青鬼のタンゴ」を踊った。

<鬼の登場～豆まき>

参加者全員で楽しく踊っていると、突然太鼓・シンバルの音が鳴り響く。音のする方からは、何と、赤鬼と青鬼が怒り狂った様子で金棒を振り回しながら遊戯室に入ってくる。逃げ惑う園児たち、追いかける赤鬼・青鬼。こうなれば、鬼の嫌がる煎った大豆をぶつけて、追い払ってしまおう！！園児たちは、先生方から煎った大豆を受取ると、猛然と鬼に向かって豆を投げつける。大勢の園児から、嫌いな煎った大豆をさんざんぶつけられ、さすがの鬼も、怯んでしまい後ずさり。反対に追い詰められ、遊戯室から雪降る外へと逃げ出してゆく。「やったー」という歓声と勝ちどきの声が上がった。

あり、特に立春の前日を指す。悪いことが起こるのは鬼のしわざであるから、この鬼を退治せねばならない。柵の枝に鰯の頭を刺したものを戸口にはさんでおけば、鬼は嫌がって近寄ってこない。また鬼の嫌がる煎った大豆をまいて鬼を追い払うようになった」そうである。次はいよいよ本校生徒の出番である。



「赤鬼と青鬼のタンゴを全員で踊る」



交流体験実習「豆まき」当日（つづき）

<園児同士で豆のぶつけあい>

鬼の退場した後は、園児同士で豆のぶつけ合いが始まった。遊戯室の空気が騒然とし、あちこちで豆が飛び交っている。園児一人一人は、自分の中にいる退治したい鬼を抱えている。



園児同士で豆をぶつけ合うことで、お互いに鬼を退治する手伝いをしているのか・・・？。そんな理屈はさておき、園児たちは、担任に豆をぶつかけたり、高校生にぶつかけたりと大はしゃぎで楽しんでいた。

<豆拾い>

頃合いを見計らって、進行係の担任の指示で、豆のぶつけ合いは終了。園児一人一人に小さなビニール袋が配られ、豆拾いの始まり。

「おーいぶつけるぞ！」 「お返しだ！」

園児たちも高校生もせっせと豆を拾う。あちこちで、園児と高校生の交流も始まる。「僕は、こんなにたくさん拾ったよ」、「すごいね、いっぱい拾ったね」。「ここにたくさん豆が落ちているよ」、「一緒に拾おうか」。遊戯室いっぱいにまき散らかされた豆が、短時間で手際よく拾い集められ、整理整頓された状態になってゆく。清掃の大切さを、豆拾いをとおして身につけてゆく。高校生のお兄さん、お姉さんは大人としての自覚を持ち、園児と関わってゆく。普段の高校生活の中では、垣間見ることのできない行動を目の当たりにして、参加生徒たちに頼もしさすら感じた。



進行係の担任の指示で、豆拾いは終了。拾った豆は、園児が家庭に持ち帰ることとなった。その後、豆まき集会の整列の隊形となり、全員で歌「春よ来い」を合唱し、豆まき集会は終了となった。

「この豆あげるよ」 「ありがとう」

<保育室へ入って豆を食べる>

豆まき集会の後に、園児たちはそれぞれの



保育室へ入る。高校生はそれぞれ分かれて各保育室に入り、幼稚園における教育の一端に触れることができた。青鬼役の生徒は、園児たちに見破られ、さんざん攻められたとこぼしながらも充実した表情であった。貴重な体験の場を提供していただいた、幼稚園と園児たちに感謝いたします。

この広報は、新潟北高等学校ホームページhttp://www.niigataki-h.nein.ed.jp/gakkou/top_gakkou.htmlにも掲載しています。